

平山省齋 せいらやま せいさい 神道家。文化十三年二月十九日陸奥國生れ、明治二十二年五月二十一日歿（八二五一九〇）。講敬忠、字安民、通稱八藏、安定、黒岡謙次（二）郎、平山敬。別號素山道（簡）人。二春藩土黒岡活圓齋の子、幕臣平山氏を嗣ぐ。江戸に出て安積良齋あんせきりやうさいに學ぶ。岩瀬忠いわたけ ちゆう震ゆりに認められ重用せられた。安政の大獄に連坐して免職差控となるも、前後外交の活躍。慶應二年には外國總奉行、翌年若年寄となり、幕權の維持に努めたが、免職處分を受けた。維新後宗教道に赴き、神道大成教を創設して管長、氷川神社宮司、百枝神社祠官等々を務める。また漢詩を能くした。平山成信の養父。

著書に、『大成教婚禮式』（明治十七年十一月大成教本部）、『俳教眞訣零解』（明治二十年四月十日大成教館藏、北澤伊八發兌）、『省齋遺稿』全二冊（明治二十二年十一月二十日平山成信編刊）、『修道眞法合本』（大正十四年二月十一日大成教教務廳）等。